



イイケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

第 551 回 「相手のこと」が見えますか？

2013.11.17

先義後利(せんぎこうり)、先意承問(せんいじょうもん)、和顔愛語(あいがんあいご)、滅私奉公(めっしほうこう)、思慮分別(しりょふんべつ)、至誠通天(しせいてんにつうず)、鴛鴦之契(えんおうのちぎり)、琴瑟相和(きんしつあいわす)、相思相愛(そうしそうあい)、己所不欲勿施於人(己の欲せざる所、人に施す勿かれ)、情けは人のためならず(なさはひとのためならず)、Do as you would be done by (ルカ伝 6 章 31 節)、Change chair (チェンジ・チェアの原則)……古今東西、言い伝えられてきた戒めの言葉である。

それに対しこんな言葉がある。たとえば…

一言居士(いちげんこじ)、慇懃無礼(いんぎんぶれい)、因循姑息(いんじゅんこそく)、右顧左眄(うこさべん)、横行闊歩(おうこうかつぽ)、我田引水(がでんいんすい)、眼中無人(がんちゅうむじん)、頑迷固陋(がんめいこうろう)、氣随氣儘(きずいきまま)、牽強付会(けんきょうふかい)、傲岸不遜(ごうがんふそん)、厚顔無恥(こうがんむち)、傍若無人(ぼうじゃくぶじん)、直情徑行(ちよくじょうけいこう) まだまだ……たくさんあるようだ。

両群の違いは明らかだろう。最初の群は相手の事を大切に敬い、自分より相手を中心に思い、相手の立場をまず理解しようとする思想を持ちなさいということだろう。人や社会との付き合い、自身や家族の生活、商売(ビジネス)、恋愛…すべてに通じることである。

下の群は真逆のパラドックスである。

自己中心的で相手ことは無視、自分の存在だけを強要するという戒めの言葉である。

最近特に、自分中心に考える人が多くなった。世の中機能的に利便性が高まるほど、色々な場面でコミュニケーションが取れなくなっている。

その大きな原因は、自分の世界に没頭するあまりに、相手の顔が見えなくなり、ライブのコミュニケーションが面倒になってしまう。相手の顔を見なくても、イチイチ話など聴かなくても、用件だけメールで送ればそれで良しとする風潮が蔓延する。

メールの恋文、メールの休暇届どころか退職願となると、陳腐で滑稽で、哀れな話である。

その結果、相手の「思い」や「立場」「痛み」を、暗黙のうちに感じとる機能が衰えてしまった。

便利過ぎて、スピーディ過ぎる社会が、暖かなコミュニティを崩壊させつつある。

その最大の原因を、現代社会の進化にあると、ずーっと思いついていた。

しかし…冒頭の格言群を見れば、「自分の事よりまず相手の事を」という単純極まりないテーマは、古今東西の、容易に解決できない課題であることに気付く。

現代社会の進化がもたらした、新たな風潮ではなかったようだ。

エゴイズム、利己主義、唯我論…これもまた、現実社会として永遠に存在していくのだろう。